

〔資料紹介〕

福田徳三書誌

——一橋関係を中心として——

金 沢 幾 子

本学の福田徳三博士（1874—1930：明治7—昭和5）は、我が国の西欧経済学の移入定着期に、マーシャル経済学やマルクスの『資本論』の紹介、ビグーの研究を通じての厚生経済学の展開など、「科学としての経済学」**を導入した。また社会政策学会の活動に参加したほか、河上肇との再生産論争など学界に影響を与え、吉野作造らと黎明会を組織して大正デモクラシーの啓蒙運動を行った。門下に本学では大塚金之助、杉本栄一、中山伊知郎、山田雄三ほか慶応義塾では小泉信三、高橋誠一郎などそうそうたる研究者を育成した。博士の著作は多いが、ドイツ留学時の恩師ブレンタノ教授の80歳を賀して、それまでの論著を選択し『経済学全集』（6集8冊 大正14—15）を刊行した。博士の蔵書は、山田雄三先生の指導によって『福田徳三蔵書目録』（洋書の部3冊、和書の部1冊 1931）が作成され、昭和6年大阪市経済研究所が購入、現在大阪市立大学附属図書館に所蔵されている。

本稿は、博士が一橋関係誌紙に発表したものが『全集』やその他の刊行図書にほとんど収録されていないことから、それらの著作を中心とした書誌を略年譜と合わせて編纂した。

博士の著作を掲載した本学関係の雑誌及び新聞は以下のとおりである（刊年順）。

- （1）高等商業学校学友会雑誌
 - （2）高等商業学校同窓会会誌
 - （3）東京高等商業学校同窓会会誌
 - （4）一橋会雑誌（東京高等商業学校一橋会）
 - （5）一橋（一橋商科大学一橋会）
 - （6）商学研究（東京商科大学商学研究編輯所）
 - （7）如水会会報
 - （8）ヘルメス（東京商科大学一橋本科会学術部）
 - （9）一橋新聞（一橋大学新聞部）
- （復刻版：不二出版 1988）

(1)(8)は著作はないが関連記事を収録、参考文献は本学関係以外は戦後の一部に限った。

I 福田徳三略年譜（主要著作を含む）

- 1874 (M 7) 12月2日 東京神田に生まれる, M 18 (12歳) 築地新栄町教会で受洗
- 1890 (M 23; 17歳) 9月 高等商業学校予科入学, 翌年から青年夜学校の教師をして
学業継続
- 1893 (M 26; 20歳) 5月 “インスピレイションの説” 翻訳 (神学研究会発行「神学
研究講義録」第1号所収), 7月 坂田重次郎と共に修学旅行, 連名で『報告』1・2
巻を提出
- 1894 (M 27; 21歳) 7月 高商を首席で卒業, 9月 神戸商業学校教諭となる
- 1895 (M 28; 22歳) 9月 神戸商業学校を辞職して上京, 高商研究科に進学
- 1896 (M 29; 23歳) 8月 高商研究科卒業, 9月 高商講師となり, 留学の内命を受く
- 1898 (M 31; 25歳) 5月 ドイツ留学, ライプツヒ大学に入学, ビュッヒャー教授に
就く, 9月 ミュンヘン大学へ転学, プレンタノ教授に就く. 翌年6月 国際商業教
育会議(ヴェネチア)に参列, 12月 プレンタノとの共著『労働経済論』同文館発行
- 1900 (M 33; 27歳) 7月 ミュンヘン大学卒業, Dr. 学位を受く, この年 Die
gesellschaftliche und wirtschaftliche Entwicklung in Japan. Stuttgart, J. G. Cotta
出版
- 1901 (M 34; 28歳) 9月 帰朝, 11月 高商教授として経済原論, 経済史を担当,
翌6月 ワグナー並びにプレントノ共著『最近商政経済論』を関一と共訳, 大倉書店
発行
- 1903 (M 36; 30歳) 4月 東京商業学校同窓会常議員となる, 同月より社会政策学会
(M 29. 4創立, 第1回大会 M 40. 12) に出席, 12月 『国民経済原論』1巻上(総論)
哲学書院発行
- 1904 (M 37; 31歳) 8月 休職を命じられる, 鎌倉で参禅(如意団創立(M 39)の発
端)
- 1905 (M 38; 32歳) 2月 一橋会編纂部部长辞任, 5月 法学博士の学位を受く, 10
月 慶応義塾教員となり経済原論のちに日本経済史をも担当, 翌年8月 東京高商退
官

- 1907 (M 40; 34 歳) 4 月 『日本経済史論』(坂西由蔵訳) 宝文館発行, 6 月 『経済学研究』同文館, 9 月 『経済学講義』(上) 大倉書店発行
- 1909 (M 42; 36 歳) 6 月 『経済学講義』(中), 9 月 同(下) 10 月 同(全) 発行
- 1910 (M 43; 37 歳) 4 月 高商講師嘱託, 9 月 一橋会編纂部部長となる(T 1. 9 辞任)
- 1911 (M 44; 38 歳) 12 月 『経済学教科書』大倉書店より発行, 翌年(T 2) 5 月 『統経済学講義』(流通総論) 大倉書店, 11 月 『統経済学研究』同文館発行
- 1915 (T 4; 42 歳) 3 月 『改定経済学研究』同文館, 11 月 『改定経済学講義』大倉書店発行
- 1916 (T 5; 43 歳) 11 月 「生存権の社会政策」を『金井教授在職二十五年記念・最近社会政策』に発表, 翌年(T 6) 2 月 『国民経済講話』(乾) 佐藤出版部より発行
- 1918 (T 7; 45 歳) 2 月 『国民経済講話』(坤 1) 佐藤出版部, 3 月 『経済学考証』同発行, 同月 慶応義塾を辞す, 11 月 吉野作造と共に黎明会を組織する(解散 T 9. 8)
- 1919 (T 8; 46 歳) 4 月 マーシャル『経済学原理』大塚金之助訳(福田補訂) 佐藤出版部 5 月 東京高商教授となる, 7 月 『黎明録』 11 月 『国民経済講話』(坤 2) 同発行
- 1920 (T 9; 47 歳) 2 月 ポート部長を引受ける, 4 月 東京商科大学教授に任命される, 以後経済原論, 経済史, 経済政策, 社会政策などを担当, 6 月 『マルクス全集』1 卷(1)「資本論」高島素之訳(福田校註) 大鑑閣 11 月 『現代の商業及商人』 12 月 『暗雲録』発行
- 1921 (T 10; 48 歳) 2 月 『訂正増補国民経済講話』, 3 月 『改版経済学考証』, 5 月 『経済学論』大鑑閣発行, 翌年(T 11; 49 歳) 2 月 『社会政策と階級闘争』大倉書店, 4 月 帝国学士院会員となる, 6 月 『社会運動と労銀制度』改造社, 7—8 月 朝鮮, 満州, 中国訪問, 9 月 『ボルシェヴィズム研究』改造社より発行
- 1923 (T 12; 50 歳) 2 月 内務省社会局参与に任命される, 3 月 『経済危機と経済回復』大鑑閣発行, 9 月 震災直後, 東京商大生らを率いて罹災者失業調査を指導
- 1924 (T 13; 51 歳) 7 月 『復興経済の原理及若干問題』同文館発行
- 1925 (T 14; 52 歳) 1 月 『経済原論教科書』同文館, 3 月 『経済学全集』第 1 集「経済学講義」, 第 2 集「国民経済講話」同文館, 5 月 帝国学士院代表として第 6

- 回万国学士院連合会議（於ブリュッセル）出席，同月『流通経済講話』大鑑閣発行，
8月ドイツに入りブレンタノ教授に再会，9月 レニングラード学士院二百年祭に参
列，10月『全集』第3集「経済史経済学史研究」，第4集「経済学研究」発行
1926（T 15；53歳） 欧州各地をへて8月帰朝，9月『全集』第5集「社会政策研究」，
11月 第6集「社会政策及時事問題」発行，翌年（S 2；54歳） 2月 仏国学士院客
員となる
- 1928（S 3；55歳） 5月『唯物史観経済史出发点の再吟味』前冊 改造社，9月 改
造社版『経済学全集』第2巻「経済学原理」（総論及生産篇）発行
- 1930（S 5；57歳） 1月 入院，3月『厚生経済研究』刀江書院，5月8日 永眠，
11日大学葬，10月 改造社版『経済学全集』第3巻「経済学原理」（流通篇 上），
12月 同（下）発行
- * 1948. 9 『生存権の社会政策』赤松要編 名古屋 黎明書房発行（社会科学選書1）
* 1980. 6 『厚生経済』山田雄三解説 講談社発行（講談社学術文庫）
* 1980. 7 『生存権の社会政策』板垣與一前書き 講談社発行（講談社学術文庫）
- この他，編纂に携わったものに『経済学経済史論叢』（同文館 2冊 M 37. 9—38. 5），
『経済学大辞書』（同文館 9冊 M 43. 12—T 5. 4），『日本経済叢書』（同刊行会 36巻
T 3. 6—T 6. 12，続編3巻 T 12. 5—T 12. 7），『内外経済学名著』（坂西由蔵と共編
同文館 6冊 T 2. —S 4. 3）がある。

II 本学関係書（明治26—昭和5）

A. 本学に提出した論文や，本学刊行図書

1. 『群馬県附栃木県足利長野県修学旅行報告』（修学旅行報告第1巻） M 27. 1. 259 p.
和装毛筆書き * 第2巻は坂田重次郎『新潟富山石川福井県修学旅行報告』，連名提
出
2. Commercial crises and depression of trade. July 19th, 1896. 105 p. 卒論
3. エーレンベルヒ著『高等商業教育論』抄訳 付録：ポエメルト氏 商業経営学，商
業道德学論 東京高等商業学校刊 M 31. 6. 58 p.
4. “エコノミック・デモグラフィーより見たる震災前の東京市”（東京商科大学一橋会
編輯「復興叢書」第1輯 岩波書店 T 12. 12） pp. 202—241

B. 一橋関係の雑誌・新聞に掲載された福田の著作（書状，講演要旨を含む）（『一

橋大学学制史資料』、『一橋会資料集』に収録するものは『学制史』、『資料集』と表示)

(1) 「高等商業学校校友会雑誌」における福田徳三に関する記事

1. 学生の修学旅行 (13号; M 26. 11; p. 28)
2. 卒業証書授与式 (15号; M 27. 8; pp. 12—13, 17) * p. 17 は福田の答辞

(2) 『高等商業学校同窓会会誌』における福田徳三の著作

1. 欧米商業教育近況 (4号; M 31. 12; pp. 30—49) * 『学制史』第2巻3集 pp. 150—160.
2. 商業教育ニ関スル著書一覽 (5号; M 32. 5; pp. 69—74)
3. 通信 (6月17日着) (6号; M 32. 9; p. 19)
4. 威府国際商業教育会議概況 (9号; M 33. 4; pp. 57—78)
5. 通信 (6月6日発) (11号; M 33. 8; p. 28)
6. 白耳義国諸法科大学に於ける商業学科 (14号; M 34. 2; pp. 16—24) * 前掲 pp. 174—178
7. 独瑞伯三国に於ける商業大学増設実況 (15号; M 34. 4; pp. 29—39) * 前掲 pp. 187—194
8. 商科大學設立ノ必要 (15号; M 34. 4; pp. 55—62) * 前掲 pp. 202—207. 石川巖, 石川文吾, 神田乃武, 瀧本美夫, 津村秀松, 志田鉦太郎, 関一と共著

(3) 「東京高等商業学校同窓会会誌」における福田徳三の著作

1. 明治四十四年度卒業生記念寄贈書籍に就いて (85号; T 1. 12; pp. 64—74)
2. [本会幹事宛大正4年9月13日付書状] (101号; T 4. 10; pp. 93—95)

(4) 「一橋会雑誌」における福田徳三の著作

1. 一橋会発会式に際し希望を述ぶ (1号; M 36. 3; pp. 37—43) * 『学制史』3巻4集 pp. 33—36
2. 独文討露の歌 (5号; M 37. 6; pp. 127—129) * 「輪南生」のペンネーム使用
3. パアンス伝の稿を火くの辞 (6号; M 37. 10; pp. 93—96) * 「浜の人」のペンネーム使用
4. 人格の保全と共済保険 (13号; M 38. 6; pp. 55—60)
5. Handelsschulwesen in Japan. (14号; M 38. 9; pp. 21—26)
6. 宗教と商業 (20号; M 39. 3; pp. 1—9) 堀義貴筆記 * 『一橋基督教青年会五十年史』pp. 177—181, * 福田著『改定経済学研究』(坤) 第4篇付録 pp. 711—722 所

収

7. 維摩経を読む (23号; M 39.6; pp. 1—4)
8. The paper age. (28号; M 40.1; pp. 20—24)
9. 1月8日付一橋会理事宛 [書簡], 1月12日付一橋会宛 [書簡] (39号付録; M41.2; p. 95, 96) * M 40.12 ポート部員遭難に関して
10. 労働全収権の理論 (57号; M 43.2; pp. 61—66)
11. 原論講義補遺 (60号; M 43.5; pp. 53—58)
12. 岡田君に答う (62号; M 43.9; pp. 60—61) * 61号; M 43.6 掲載の岡田重次の問に対して
13. 開校二十五年記念式に参列して (62号; M 43.9; pp. 102—106)
14. [如意団に於ける講演] (大要) (65号; M 43.12; pp. 31—36) * 如意団25年誌『鉄如意』(S6)に「参禅懐旧」と題して再録
15. 校風発揚の一好機 (65号; M 43.12; pp. 72—73)
16. 学会に就ての卑見 (67号; M 44.2; pp. 85—90) * 『資料集』pp. 208—211
17. クセノフォンの著書の邦訓に就て (71号; M 44.6; pp. 29—32)
18. 一研究室の業を始むるの辞 (開室当日演述の大要) (72号; M 44.9; pp. 47—52)
19. 京坂神の経済学界 (73号; M 44.10; pp. 73—77)
20. 故依田保治君紀念寄附図書に就て (74号; M 44.11; pp. 29—35)
21. [坂西私信を収録した旨] (74号; M 44.11; pp. 39—40)
22. 故駒井先生の十周年忌に際して (75号; M 44.12; pp. 1—8)
23. [如意団に於ける講演] (大要) (77号; M 45.2; pp. 58—61) * 14 (*) に「偶感」として再録
24. 三浦梅園著「價原」を同人に頒つの序 (78号; M45.3; pp. 1—4)
25. 官学と民学 (研究部部報) (78号; M 45.3; pp. 92—95)
26. 『本朝度制略考』を頒つの序 (79号; M 45.5; pp. 1—4)
27. 明治四十四年度卒業生紀念寄附書籍に就て (83号; T 1.11; pp. 18—29)
28. 剰余金処分問題 (92号; T 2.10; pp. 19—26)
29. 東北飢饉救済策に就て: 研究部大会に於ける演説 (97号; T 3.3; pp. 14—19)
30. 英語大会駄評 (110号; T 4.5; pp. 9—14)
31. 大学とは何ぞや (115号; T 4.12; 29—34) * 福田著『経済学論攷』pp. 293—299

* 同『経済学全集』第4集 pp. 1408—1416 * 『資料集』 pp. 333—335 所収

32. 日本は英国の殖民地にあらず：経済戦の側面観 (124号；T 5. 11；pp. 21—26)
 33. 戦後経済の重要問題 (139号；T 7. 7；pp. 1—8)

(5) 「一橋」における福田徳三の著作

1. 東京商科大学規則草案修正意見書 (1号；T 9. 6；pp. 51—54)
 2. 私経済学の本質：懸賞論文査評 (11号；T 11. 2；pp. 1—2)

(6) 「商学研究」における福田徳三の著作

1. 労農露国の『開国』と『資本主義降伏令』(2巻1号；T 11. 5；pp. 329—342) * 福田著『ボルシェヴィズム研究』pp. 331—351. * 同『経済学全集』第5集 pp. 1307—1325 所収
 2. 『共産宣言』の一草稿たるエンゲルス稿『共産主義綱領』(2巻1号；T 11. 5；pp. 343—358)
 * 3. 階級闘争によらざる社会主義への一道程としての消費組合 ロバート・ヴィルブラント著 福田徳三校閲 鈴木平吉訳 (2巻2号；T 11. 10；pp. 741—813)
 4. 厚生哲学の闘士としてのアダム・スミス (3巻2号；T 12. 12；pp. 389—424)
 5. 中山伊知郎「デュブユイ 公共的業務の利用測定について」への跋 (4巻1号；T 13. 5；pp. 314—315)
 6. 稿本支那経済史大系 1—6 (4巻2号—6巻3号；T 13. 11—S 2. 8)；開題、小引
 7. 文明史家としての田口鼎軒先生 (7巻1号；S 2. 10；pp. 1—55) * 『鼎軒田口卯吉全集』第2巻 文明史及社会論解説として収録
 8. La question de l'emprunt en Francs de la Ville de Tokio, examinée au point de vue de l'équité internationale. (Traduction de l'article publié dans "Investment", Tokio, N° d'Octobre, 1926) 「国際信義の立場より見たる東京市仏貨債問題」の仏訳文 (8巻1号；S 3. 4；pp. 1—24)
 9. 日露両国の知的協力 (8巻2号；S 3. 7；pp. 217—221)

(7) 『如水会会報』における

a) 福田徳三の著作

1. 世界経済の恢復と日本・支那・米国の使命 (如水会壬戌大会録；T 12. 6；pp. 106—121)
 2. 支那に於ける新思想運動と支那文明の将来 (如水会壬戌大会録；T 12. 6；pp. 140—141)

—152)

3. 福田博士通信：三月十九日上海沖にて，三月二十五日於香港（24号；T 14. 5；pp. 88—89）
4. 福田博士通信：四月十六日船中にて如水会理事各位宛（25号；T 14. 8；p. 84）
5. 福田博士より：九月六日ライブチッヒにて，如水会理事各位宛（26号；T 14. 10；p. 42）
6. 巴里だより（30号；T 15. 5；pp. 2—8）
7. 左右田博士の逝去に際して（46号；S 2. 9；pp. 1—3）
8. Toastrede gehalten am “Deutschen Abend” des Josuikai. 如水会国際部総会並に『独逸の夕』昭和3年11月1日夕（61号；S 3. 12；pp. 73—75）
9. 「白耳義の夕」に輝くブロックホイス教師の誉：Remarks（62号；S 4. 1；pp. 93—98）
10. アリストテレース，クナップ，左右田（故左右田博士記念会講演 2）（63号；S 4. 2；pp. 50—60）
11. 垂米利加の夕：Toast（74号；S 5. 1；pp. 10—11）

* b) 福田徳三に関する記事

- 福田徳三君追悼録（79号；S 5. 6；pp. 1—[30]）福田徳三君追悼録（2）（80号；S 5. 7；pp. 49—64）

（8）「ヘルメス」における福田徳三に関する記事 * [ヘルメスの選名]

井上鎧三：學術部部報に代えて（1号；T 13. 3；pp. 113）水本生：編集後記（同）

（9）「一橋新聞」における福田徳三の著作

1. 米国旗事件側面観（3号；T 13. 7. 18；p. 1：復刻 1：11）
2. 福田博士よりの来書（6号；T 13. 10. 1；p. 3：復刻 1：25）
3. ポートレース所感（8号；T 13. 11. 1；p. 1：復刻 1：31）
4. 炎熱の印度洋より福田博士第一信 14・4・5（16号；T 14. 5. 1；p. 3：復刻 1：67）
5. 熱田丸の『福魚』博士から第信の前触れ（18号；T 14. 6. 1；p. 2；復刻 1：74）
6. 福田博士在欧通信（1）—（5）：（24号；T 14. 10. 1；p. 4）（25号 T 14. 10. 15；p. 3）（26号；T 14. 11. 1；p. 3）（27号；T 14. 11. 15；p. 3）（28号；T 14. 12. 7；p. 4）復刻 1：102, 107, 111, 115, 120）

7. 休職商大教授という新しい肩書きを得ました (33号; T 15. 5. 1; p. 2: 復刻 1: 144)
8. ウニフェルシタス・リテラルムの意義 (1) — (4); (41号; T 15. 10. 15; p. 1) (42号; T 15. 11. 1; p. 1) (43号; T 15. 11. 22; p. 1) (44号; T 15. 12. 1; p. 1) (復刻 1: 177, 181, 187, 191)
9. プロゼミナール紹介 (1) 各教授からの答 (46号; S 2. 1. 1; p. 3: 復刻 1: 201)
10. 大学の本義 (1) — (3): (51—52号; S 2. 5. 16—6. 6. 55号; S 2. 7. 18) (復刻 1: 221, 225, 239)
11. 神田先生記念出版 追憶と遺稿に序す (1) — (2): (53号; S 2. 6. 20; p. 1) (54号; S 2. 7. 4; p. 1) (復刻 1: 229, 233)
12. 一橋会役員諸氏にその責を問う (54号; S 2. 7. 4: p. 2: 復刻 1: 234)

III 参考文献 (発行年順) (**は引用文献)

- 「一橋四十年史年表 自明治八年至大正三年」(一橋会雑誌臨時増刊 104号; T 3. 12; pp. 1—31)
- 『一橋五十年史』酒井龍男 編輯 東京商科大学一橋会 T 14.9 320, 96 p.
- 『福田徳三博士追悼論文集: 経済学研究』森山書店 S 8. 4 序 (坂西由蔵): pp. 1—10
- “一橋経済学の七十五年”(座談会) (「一橋論叢」第24巻3号; S 25. 9 pp. 115—144)
- * 山田雄三: 福田博士の厚生経済学について (『一橋大学創立八十周年記念論集』(上) 勁草書房 S 30. 9 pp. 51—76, 同著『国民所得』岩波書店 S 34. 9 pp. 321—348)
- 高橋誠一郎: 『経済学 わが師 わが友』日本評論新社 S 31. 6 pp. 15—16, 26—42 ほか
- 住谷悦治: 福田徳三の理論 (同著『日本経済学史』ミネルヴァ書房 S 33. 1 pp. 291—323)
- 大内兵衛: 『経済学五十年』(上) 東大出版会 1959. 5 pp. 34—39, 43—92)
- 『福田徳三先生の追憶』福田徳三先生記念会編 中央公論 S 35. 5 182 p.
- 真実一男: 文庫めぐり; 福田文庫の巻 (経済学史学会関西支部会通信 第3号; 1980. 5, * 大阪市立大学附属図書館所蔵図書案内シリーズ 2: 1975. 3 pp. 1—2 に転載)
- 『一橋大学学生諸君ご存じですか』福田徳三先生記念会編・刊 S 36 16 p.
- 山田雄三: 福田徳三先生 (「一橋論叢」53巻4号; S 40. 4; pp. 57—74)

『小泉信三全集』(文芸春秋) 福田徳三 (第10巻; S 42.7; pp. 211—214) 福田徳三(第12巻; S 42.8; pp. 170—171) 福田徳三博士 (第18巻; S 42.9; pp. 357—372) 福田博士を弔す (第13巻; S 43.4; pp. 83—88) 「資本論 第1巻 (1)」(第3巻; S 43.11; pp. 411—416) 「改訂増補国民経済講話」(同 pp. 437—444) (初出各 S 25.1, S 7.1, S 35.5—6, S 5.6, T 10.7, T 9.8)

山之内靖: 福田徳三と経済学における人格性 (同著「大正デモクラシーとマルクス主義」長・住谷編 『近代日本経済思想史 I』 有斐閣 S 44.12 pp. 296—303)

『近代日本の経済思想: 古典派経済学導入過程を中心として』杉原四郎編 ミネルヴァ書房 S 46.2 pp. 3—23; 古典派経済学と近代日本 (杉原), その他「アダム・スミス」(山崎怜)「リカードウ」(真実一男)「J. S. ミル」(永井義雄)も福田に言及
玉野井芳郎: ……福田徳三 (同著『日本の経済学』中央公論 S 46.11 中公新書 pp. 73—83)

早坂忠: 福田徳三とマーシャル経済学—「日本経済学史の諸断面」(3) (4) (『経済セミナー』196—197号; 1971.12—1972.1; pp. 78—86, 123—131)

『中山伊知郎全集』(講談社) 近代経済学について (第6集; S 47.7; pp. 296—299) 福田博士と統計学 (第2集; S 48.1; pp. 457—470) わが道経済学 (第17集; S 48.4; 189—199) 福田徳三先生と武藤山治氏 (同, pp. 211—212) 福田博士の経済学 (同 pp. 537—560) (初出 S 45, S. 5, S 43, S 40, '68), 別巻 (S 48.8) 月報座談会; pp. 25—30, 129—151, p. 142 (山内一雄)

下山平裕身: 明治労働政策思想の形成 (『経済と経済学』31—32; S 47.11—48.3; pp. 1—116, 1—47)

井内弘文: 福田徳三の日本経済論 (同著『日本経済論史』汐文社 1974.1 pp. 67—80)

池田信: 福祉国家論の先駆; 福田徳三の社会政策(日本労働協会雑誌 187; '74.10; pp. 12—21)

『上田貞二郎全集』(同刊行会) 株式会社に関する福田・関両博士との論争 (第2巻; S 50.4; 89—92) 株式会社論に就いて福田博士に答う (初出 T 3.4) (同, pp. 433—440) ほか

中山伊知郎: 「日本における近代経済学の出発点」, 「厚生経済学と福田徳三」(『近代経済学と日本』日本経済新聞社 S 53.2. 中山著『わが道経済学』講談社 S 54.4 所収)

池田信: 『日本社会政策思想史論』東洋経済新報社 S 53.3 pp. 198—212: 生存権の

社会政策

- 伊藤隆：黎明会と『解放』（同著『大正期「革新派」の成立』塙書房 S 53.12 pp. 63—97)
- 杉原四郎：福田徳三と河上肇（「経済論叢」124巻5・6号；S 54. 11・12；pp. 1—20，杉原・一海共編『河上肇 芸術と人生』新評論 1982. 1 pp. 165—188 所収）
- 山田盛太郎：わが国における経済学発展の特異性（『日本学士院創立記念講演集』同院紀要特別号 1979. 3 pp. 27—38 『山田盛太郎著作集』（1）岩波 1983. 11 pp. 283—301）
- 細谷新治：全国経済学書コレクション（「経済学セミナー」300号；1980. 1；pp. 101, 104—105）
- 山領健二：黎明会（「思想の科学」no. 118；1980. 5 pp. 50—55）
- 上田正一：『上田貞治郎伝』泰文館 S 55. 5；pp. 75—82：福田徳三との出会いと破門，ほか
- 『大塚金之助著作集』（岩波書店）大学教師生活の思い出（初出 S 28. 12）（第1巻；1980. 7；pp. 469—473）福田徳三宛書簡（S 3. 11. 30）（第10巻；1981. 11；pp. 9—10）ほか（解説など）
- 田中和男：明治末・大正初期の「生存権」思想（同志社大「社会科学」29；'82. 1；pp. 125—142）
- 山田雄三：福田経済学と福祉国家論（「日本学士院紀要」37巻3号；S 57. 3；pp. 175—189，私家版『続寒蟬』S 60. 1 pp. 82—106 所収）
- 宮島英昭：初期福田徳三の経済的自由主義（「社会経済史学」48巻1号；1982. 5；pp. 85—105）
- 『河上肇全集』（岩波書店）福田博士の思い出（初出 S 5. 6）（第19巻；1982. 5；pp. 63—65），7巻 pp. 394—413，10巻 pp. 416—435，11巻 pp. 449—457，12巻 pp. 38—132，18巻 pp. 415，続5—7巻，「月報」3，7，8（山田雄三）12（宮島英昭）14—15（早坂忠）25（宮川実）
- 宮本又次：福田徳三博士の経済史的研究の成果（同著『先学追慕』思文閣 S 57. 12 pp. 23—44；初出「経済史研究」21巻1号；S 14. 1 pp. 68—81；福田徳三博士）
- 杉山忠平：福田徳三と武藤長蔵—チャイルドをめぐる（「一橋大学社会学古典センター年報」no. 3；1983. 3 pp. 13—17）同補遺（同 no. 4；1984. 3 pp. 11—13）

- 杉山忠平：ケインズとの出会い（「エコノミスト」6117号；1983. 4. 26；pp. 54—56
 同著『窓辺から』未来社 1986. 6 pp. 243—248 所収）
- 『一橋ボート百年の歩み』四神会編・刊 S 58. 12 pp. 48—49, 79, 83, 292—293 ほか
 宮島英昭：近代日本における“社会政策的自由主義”の展開（「史学雑誌」92 編 12 号；
 S 58. 12；pp. 46—72）
- 清野幾久子：福田徳三における『生存権論』の受容とその展開——明治憲法下における
 『生存権論』の一断面（「明治大学大学院紀要」21；S 59. 2；pp. 81—95）
- 渡辺邦博：福田文庫のチャイルド（「経済学雑誌」v. 84, no. 6；1984. 3；pp. 40—47）
- 宮島英昭：一九二〇年代初頭の“社会政策的自由主義”（「社会経済史学」50 巻 1 号；
 1984. 4；pp. 31—56）
- 辻村江太郎：福田徳三と中山伊知郎（『日本の経済学者たち』日本評論社 S 59. 5
 pp. 32—48）
- 『日本の経済学；日本人の経済的思惟の軌跡』経済学史学会編 東洋経済新報社 S 59.
 11. pp. 70—92：経済学研究における福田徳三（飯田鼎），pp. 287—289：福田徳三の
 業績（杉原）
- 杉原四郎：福田徳三と河上肇（『日本のエコノミスト』日本評論社 1984. 12 pp. 113
 —123 初出：「経済セミナー」1977. 12 pp. 2—3）
- 加茂利男：「大正デモクラシー」と社会政策思想——福田徳三論覚書——（『統合と抵抗
 の政治学——山崎時彦先生退任記念論文集』有斐閣 S 60. 3 pp. 185—205）
- 小林漢二：日本歴史学派経済学の崩壊過程 1（愛媛経済論集 6 巻 2 号；S 61. 11 pp.
 41—66）
- 西沢保：世紀転換期における高等商業教育運動をめぐって——飯田、関、福田の留学を
 中心に——（「経済学雑誌」v. 88, no. 1；1987. 5 pp. 57—78）
- 齋藤慶司：『左右田喜一郎伝』齋藤郁子刊 S 63. 3 pp. 67—76：福田徳三，ほか
- 井上琢智：近代経済学の日本への導入（橋本昭一編『近代経済学の形成と展開』昭和
 堂 1989. 5 pp. 229—250）
- 山田雄三：福田経済学再考（私家版『寒蟬』第 4 集 平成 1. 7 pp. 76—84）
 学園史資料や『橋間叢書』（一橋の学問を考える会）には他にも福田に触れたものが
 多い。
- 『一橋大学学制史資料』一橋大学学園史編集編・刊 2 巻 3 集；S 57. 11. 3 巻 4 集；

S 58.3

『如水会の歩み』一橋大学学術史編纂事業委員会編 如水会刊 S 57.9 p. 44 ほか

『一橋のゼミナル』同史編さん委員会編・刊 S 58.3 pp. 319—322: 福田徳三ゼミナル

松本秀夫: 『大正デモクラシーの開花期のころの学園』同上 : S 58.3 28 p.

『一橋の学風とその系譜 I』同史編纂委員会編・刊 S 60.7 *印の『橋問叢書』を収録

『一橋会資料集』同上 S 61.6 467 p. *「一橋会雑誌」の主要記事を収録

『一橋大学学問史』同学園史刊行委員会編 一橋大学刊 S 61.3 「経済学」: pp. 265—278 (美濃口), 283—301 (荒), 303—321 (種瀬), 323—326 (関), 378—381 (板垣)

*宮沢健一: 一橋経済理論の伝統と現代; 理論と歴史および制度 S 57.1 32p. (橋問叢書 3)

*山田雄三: 一橋と福田経済学; 実学的「近経」の系譜 S 57.1 26 p. (同 4)

*荒憲治郎: 一橋大学におけるケムブリッジ経済学の伝統 S 58.8 pp. 5—11 (同 21)

菅順一: 福田徳三の社会政策論 S 58.10 23 p. (同 23)

本稿の作成にあたって杉原四郎先生より多大の御教示を、また山田雄三先生、宮島英昭早大商学部講師より貴重な情報や資料の提供をいただきました。

(一橋大学附属図書館書誌係)